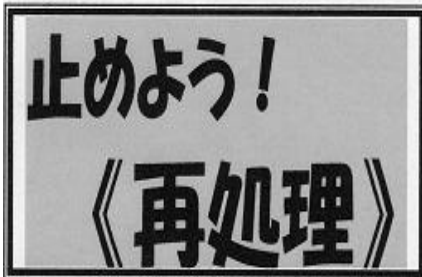


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》  
 2017(平成 29)年  
 5月17日  
 第176号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

# 安定ヨウ素剤の事前配布を!

これでは第二の原発事故もあり得る!  
**ヨウ素剤の事前配布の会結成**

地震活動が活発化する中で、の原発再稼働。この無謀な現実では『第二の原発事故』をも想定した対策が必要です。有志の呼びかけで『ヨウ素剤の事前配布を求める会』が結成されました。福島原発事故の経験は、安定ヨウ素剤の服用により子ども達を守ることが緊急課題であると教えています。

安定ヨウ素剤の効果的な利用には事前の各家庭への配布が必要です。そのため運動が始まり要望書を関係する各省庁や自治体、電力会社へ提出します。

## 安定ヨウ素剤の事前配布の要望書

(要旨)

- 国が承認したヨウ素剤を、医師の処方と薬剤師の調剤のもとに、事前に必要な人に、きちんとした使用法の情報を添えて渡されるようにして下さい。
- 事前に渡すことにより、地震や事故時の混乱のなかでの、有効な服用が可能となります。
- 放射性ヨウ素の飛散は三〇〇km圏とは限らないのでより広範な地域に配布して下さい。
- 停止中の原発の使用済み核燃料プールの事故もあり得ます。日本列島全体の住民に安定ヨウ素剤を手に入れる権利があります。
- 海外で実施されている人道的配布に、医師を通じて応募出来る制度を整備してください。

\*会の連絡先… DAYS救援アクション  
 電話〇三・五三七六・七八九八

## DAYS救援アクション 講演会(東京)報告

# 早急な原発ゼロ実現のみが日本を救う

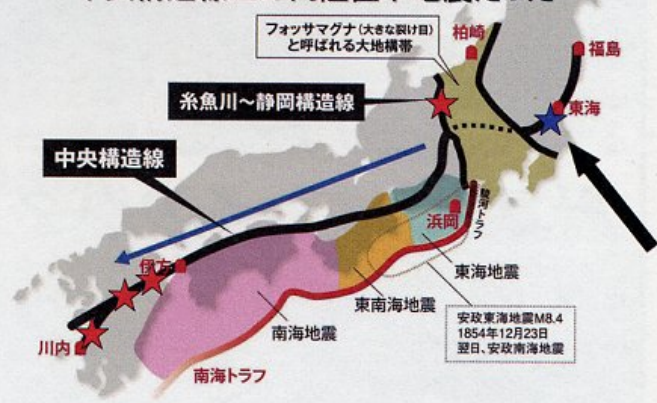
## 白熱授業2時間半 広瀬隆氏



## 中央構造線が動き出した!

## その1

2016年に立て続けに起こった茨城県南部地震も中央構造線上の内陸直下地震だった



四月三〇日、東京中野ゼロホールで、DAYS救援アクション主催の、広瀬隆氏による『日本の全原発が危ない』と題する講演会が開催されました。五〇〇人定員満杯の来場者が、広瀬氏の「早急な原発ゼロ実現のみが日本を救う」という理路整然とした白熱の講演に聴き入りました。

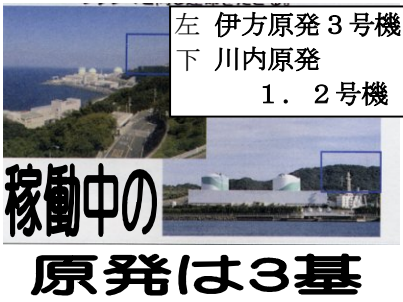
主催した「DAYS救援アクション」代表の広瀬隆氏は「地震多発の日本でも、またも無謀な原発再稼働がなされた。これでは、事故は必ず起こると予測せざるを得ない。安定ヨウ素剤の事前配布を求めよう」と訴えました。

「三陸の海・岩手の会」からは二人が上京し、講演会運営の手伝いと、当会ミニコミのための取材を行いました。

\*図版・写真など(当日配布資料から)  
 記事の文責(岩手の会・編集事務局)

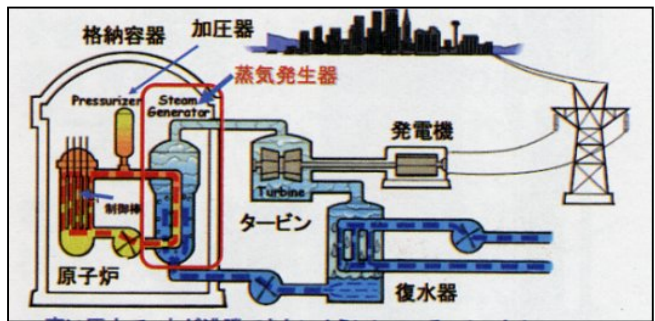
# 中央構造線は 日本を縦断する超巨大活断層

日本列島は中央構造線という大断層が続く地形によって縦断されていることは中学校の地理などで教えられています。その中央構造線が、近年、日本列島に沈み込む太平洋プレートとの動きが活発になり数多くの地震を発生させています。熊本地震は明らかに中央構造線が動いたからです。現在、川内原発と伊方原発が再稼働されていますが、常識では考えられない、無謀で危険なことです。



予測される地震は直下型  
太平洋側から力を受けて、中央構造線は傾斜

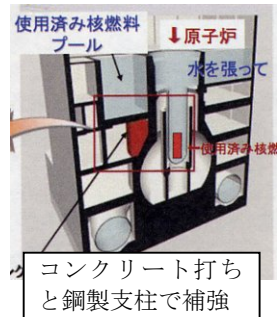
し、伊方原発の真下に向かって活断層が伸びています。また川内原発の六ヶ所沖合には中央構造線が続いています。従って予想される地震は直下型です。東日本大震災のような約百三十ヶ所沖合の震源ではなく直下型です。縦波によって地震を感知してすぐ強い横波（上下動）が襲います。あまりに短時間で、制御棒がうまく入らず、原子炉緊急停止が間に合わないかもしれません。



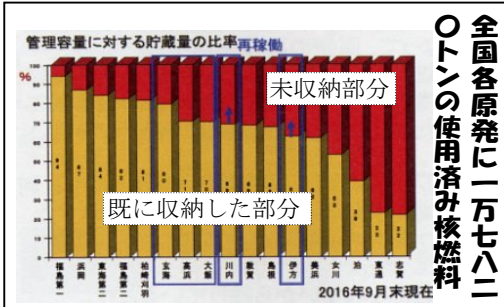
## 加圧水型原発の弱点

「沸騰水型」原発である福島第一原発と違い、川内原発も伊方原発も「加圧水型」です。原子炉内で高圧をかけて290℃〜330℃の高温の熱水をつくり、蒸気発生器に送って蒸気を発生させタービンを回します。この高温高圧の条件が難しい運転環境をもたらします。特に蒸気発生器は無数の細かいパイプで作られているので、絶えず穴あきを起こしており、定期検査で栓をしています。

## 使用済み核燃料プール倒壊の危険



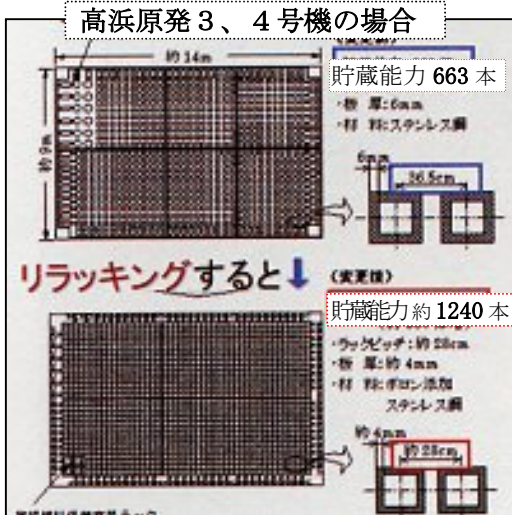
福島第一原発事故では四号機の使用済み核燃料プールの底が破壊され崩壊寸前になっていたため補強して危機を逃れました。もし崩壊していれば、水が漏れて使用済み核燃料が露出し、高温を発生して溶け始め制御不能になりました。実際に「放射能を大量に放出し東京も避難しなければならぬ地域になる」というシミュレーションが発表されています。



## 各地原発で始まった危険なリラッキング

全国の原発には使用済み核燃料が蓄積されています。使用済み核燃料は再処理用として六ヶ所工場に集中させますが、工場は稼働せず受け入れストップです。そこで各地の原発では、増え続ける使用済み核燃料を、貯蔵の間隔を詰めて、規定量の二倍も貯蔵出来るようにする「リラッキング」を始めています。危険をますます増大させる行為です。

## ラックを上から見ると



詰め込みにすれば、崩壊熱が溜まりやすい。緊急時には臨界事故の恐れも増す。

福島原発事故に倍する放射能被害が出る  
伊方原発も川内原発も日本の南西に位置しています。偏西風も黒潮もそして対馬海流も西から東に向かいます。事故を起こせば、危険な放射能は日本列島を縦断して国民を被ばくさせます。大気も海も放射能で汚染され、農作物も海産物も食べられなくなり、日本の食糧が無くなるでしょう。

甲状腺に集まるヨウ素 131は半減期八〇四日ですが、強いエネルギーを放出し八〇日で約千分の一になります。この時の甲状腺被ばくを防ぐため、安定ヨウ素剤を服用してやり過ぎし、甲状腺を守る必要があります。